

# 佐賀市の浸水を軽減するための計画を策定しました

## 佐賀市排水対策基本計画

### 「浸水に強いまちづくり・人づくり」

なぜ、計画が必要なの？

どうして浸水するの？

「佐賀市特有の条件」

近年、ゲリラ豪雨に代表される異常気象により、全国各地で集中豪雨が多発し、大規模な自然災害が起きています。佐賀市でも平成20年6月、平成21年7月の集中豪雨や、平成24年7月の九州北部豪雨の際には、市街地を中心に大規模な浸水が発生しました。



平成24年7月 中心市街地区の浸水図（聞き取り調査による） 写真：佐賀新聞記事

佐賀市では、これまでも浸水被害の軽減に取り組んできましたが、地域によっては床上、床下浸水などの被害が発生しており、これを最小限にするために、新たな対策を検討する必要があります。

一方、市の財源は限られているため、効率的な対策をとる必要があります。そこで、浸水状況や河川改修効果をコンピュータ上で再現するなどして「佐賀市排水対策基本計画」を策定しました。

この計画に基づき、具体的な対策を市民の皆さんと協働で進めながら、「浸水に強いまちづくり・人づくり」を目指します。

佐賀市の平野部は、広く平坦で海面や河川の水位よりも低い土地が多く、有明海の潮汐の影響を受け、一度雨が降ると「お皿の中の水」のように雨水がたまりやすい地形になっています。

また、雨が多い梅雨期以降は、稲作でかんがい用水を豊富に必要とする時期でもあり、水路の水位を保つ必要があります。

さらに、先人が水を有効に使うために築き上げた水路網は、豊かで潤いのある水環境を作り出す一方、水路幅が狭かったり、曲がりくねったりしているため、大雨の時に排水が難しくなる面もあります（下図参照）。

このような佐賀市特有の地形や水路状況が、大雨による浸水を引き起こしています。

### 網の目のような水路

○大和支所  
○佐賀市役所(本庁)  
○県庁  
○久保田支所  
○諸富支所  
○東与賀支所  
○川副支所

水路

### 浸水が起こるしくみ

- 通常は**  
河川や水路はかんがい用水を供給するばかりでなく、潤いのある街や生き物を育む、なくてはならない存在です。
- 雨が降りだすと**  
徐々に河川や水路の水位が上がります。小規模な水路ではあふれる場合があります。
- 雨が強く降り続くと**  
河川の水位が上昇して水路は排水不良となり、低い土地などでは浸水（内水氾濫）が発生します。この時、満潮と重なり排水機の能力を超えた流量になると、さらに浸水の危険性は高まります。
- さらに雨が激しく降り続けると**  
河川や水路があふれたり、河川堤防が決壊するなどの大きな浸水（外水氾濫）が発生します。

## どのような対策を講じるの？

### 備えの支援



メディアを活用して防災情報を提供し、大雨への市民の備えを支援します。

### 防災情報の提供



浸水が発生しやすい場所に標尺を設置し、住民と行政が情報を共有しながら、今後の対策に反映していきます。

### 災害の拡大防止



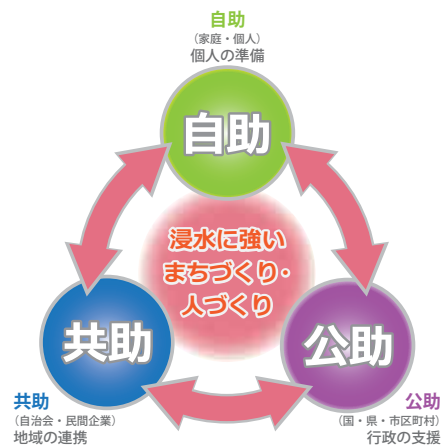
大雨により、浸水した場合に被害を最小限に食い止めるよう土のうを提供します。

### 施設の新設・有効活用



主要な堰（せき）を遠隔操作して迅速な対応を行います。国・県・市で管理している既存施設の連携操作を行います。

### ソフト対策



### ハード対策

雨水を一時貯留し、集中的な流出を防ぎます。濠やクリークなどの既存施設を積極的に活用していきます。クリークは、かんがい用水としての役割を果たす一方で、大雨時には一時的に水を溜め込むといった機能があります。



河川や水路を改修し、雨水を流れやすくします。



策定した計画には、さまざまな対策を盛り込んでいます。その中には、行政が事業として行うものだけでなく、地域の皆さんのご協力や、事前の備えを必要とするものもあります。佐賀市はこの計画に基づき、対策を実施することで、浸水被害を軽減していきます。

問い合わせ 本庁 河川砂防課 ☎40・7183 FAX26・7388

### 土のうを提供します

梅雨の時期に自主的に浸水被害に対応できるよう、土のうを無料で提供します。必要な時に次の保管場所から自由にお持ちください。支所（富士、三瀬を除く）での配布方法は、各支所総務課にお問い合わせください。

### 保管場所

市役所南駐車場、大溝公園、三溝公園、新家公園、大藤公園、草場公園、巨勢公園、旧環境センター、八戸天祐線事業用地、各支所

### 問い合わせ

本庁 道路管理課  
☎40・7178  
FAX40・7397  
または各支所総務課

